

1996年4月6日[土]—6月23日[日]

開館時間=午前10時—午後6時(入館は5時30分まで)

休館日=毎週月曜日(休日にあたるときは翌日)

観覧料=一般200円(160円) 大高生150円(120円) 中小生100円(80円)

()内は20名以上の団体料金 65歳以上の方160円

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

爽緑の季節とともに

向井潤吉

春から初夏への風景

《湖東の家(滋賀県愛知郡湖東町)》
1989年



爽綠の季節とともに

向井潤吉先生が逝去されてから半年が過ぎ、山野に新しい息吹が溢れる春を迎えました。まさに、爽綠という言葉が似合う季節となっていました。

すでに皆様ご存じのとおり、向井先生の民家作品の数々は、人々の嗜みの中心となる民家がモチーフとなっているものの、どの作品にもそれぞれ各地方独特の風土と自然景観が、民家と同様に深く観察され描かれています。

それは作品の多くから窺い知れるように、先生自身が自然というものの奥深さを熟知され、さらに人間がその自然の中に生きていることの意義を、絵画という表現の中で見事に表現されてきたということになるでしょう。

先生が描かれた民家作品の数々を顧みますと、たしかに雪が降り積もる山里に取材した作品もありますが、意欲的に創作を展開された季節は、やはり春と秋でした。

山々の紅葉を背景に、落葉する樹木とともに冬へ向かう山村の風情を描いた秋の作品に対して、春に取材、創作された作品には、萌え出する新緑の爽やかさが横溢し、厳寒を越えてきた骨太で逞しい民家が、とても印象的に描かれています。

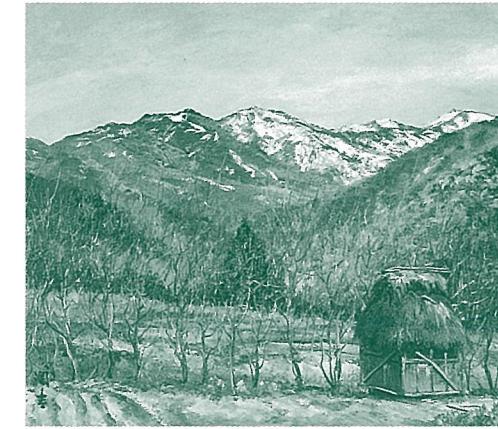
そこには向井先生の自然を愛する心と、人々の日常生活の拠点としての役割を果たしてきた民家に対する、温かい心情が通底していると言えましょう。

春という季節が山野にもたらす爽やかで新鮮な季節感を、先生がいかに愛されていたかは、作品の表題にもあらわれており、当館の所蔵作品に限らず、“春叢”、“早春”、“春景”、“春色”、“春陽”などの語句を散見することができます。

このたびの展覧会では、向井先生の民家作品の中から爽綠の季節から初夏にかけて制作された油彩画をご覧いただくと同時に、先生の遺された諸作品の根底をなし、かつ先生が民家を自然とともに深く観察され、制作現場の光と風を豊かに伝えてくれる素描作品の数々をご紹介いたします。



《丹波下山の部落(京都府船井郡丹波町下山)》1969年



《不詳(長野県更埴市森区)》1961年頃



《春映(岩手県上閉伊郡宮守村)》1976年



《マタギの家》1963年



《雀の村(三重県)》1965-75年頃



《山嶺の部落(山形県上郷)》1965-75年頃

世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

〒154 東京都世田谷区弦巻2-5-1
TEL 03-5450-9581

●最寄り交通機関のご案内

東急新五谷線【駒沢大学】駅西口 下車／徒歩10分
東急世田谷線【松陰神社前】駅 下車／徒歩17分

東急バス (渋5) 渋谷～弦巻営業所 【駒沢中学校】 停留所下車／徒歩3分
東急バス (等11) 神谷駅折返所～等々力 【駒沢三丁目】 停留所下車／徒歩3分
東急バス (渋11) 渋谷～田園調布 【駒沢大学駅前】 停留所下車／徒歩10分
東急バス (渋13) 渋谷～砧本町 【駒沢大学駅前】 停留所下車／徒歩10分

